



## ベンチャー開発戦略研究センター丸の内オフィス開設

[http://www.aist.go.jp/aist\\_j/topics/to2002/to20021029/to20021029.html](http://www.aist.go.jp/aist_j/topics/to2002/to20021029/to20021029.html)

10月28日(月)に、産総研ではベンチャー開発戦略研究センター丸の内オフィスの開所式を行いました。

この丸の内オフィスは、東京駅から5分のところにあり、皇居を臨む300㎡のフロアにベンチャー創出を目的とした戦略・システム研究のためのスペース、会議室等が機能的に設けられています。

当研究センターは、文部科学省「戦略的研究拠点育成事業」の委託を受けて、産総研発ベンチャーの創出と

ベンチャー創出・支援活動により明らかとなる課題と解決策を体系化することによって、公的研究機関の技術シーズを基にした日本型ベンチャー創出システムの確立に向けた研究に取り組んでいきます。

【参照記事：AIST Today Vol.2 No.10 P.4～】



●丸の内オフィス 〒100-0005  
東京都千代田区丸の内2丁目2-2 丸の内三井ビルディング2階  
(電話) 03-5288-6868 (FAX) 03-5288-6869



## 中国センター一般公開

[http://unit.aist.go.jp/chugoku/ibe/koukai\\_14.html](http://unit.aist.go.jp/chugoku/ibe/koukai_14.html)

10月11日(金)、中国センターでは一般公開を行いました。中国センターの一般公開は、施設や研究の紹介はもちろんのこと地域の皆さんを対象とした講演会を同時開催しているのが特徴です。

まず研究の紹介ですが、海洋資源環境分野では微生物による沿岸環境浄化を利用した有機スズ化合物分解法の開発や海洋生物が持つ機能を模倣したバイオガラスの開発の紹介、海洋モニタリング技術の開発を進め

る海上浮体実験室の模型展示、世界最大級の瀬戸内海大型水理模型を用いて一日を約10分に短縮して潮の流れを再現する公開実験を行いました。また、基礎素材分野では材料の予測診断技術の開発、表面処理技術の研究などを紹介しました。

そして呉市の協力で同時開催された市民科学技術セミナーでは中村克洋キャスターの「科学する心-イメージの力-」と題した講演があり、広島県内の小・中・高校生や地元一



般の方々、企業関係者など900名以上もの来場者がありました。



## 地質標本館2002年度野外観察会実施

[http://www.gsj.jp/Muse/eve\\_care/2002/menou1012/agate/index.html](http://www.gsj.jp/Muse/eve_care/2002/menou1012/agate/index.html)

10月12日(土)に地質標本館2002年度野外観察会「奥久慈の海底火山とめのうをさがして」を実施しました。

当日は秋晴れに恵まれ、22人の参加者が、茨城県の奥久慈地方に向け出発しました。奥久慈は久慈川の最上流部にあたり、日本三大名瀑のひとつ袋田の滝や、男体山・長福山・笹岩といった山々が見られます。これらの景観は、今から約1,500万年前の

海底火山の活動によってできた地層が、その後の隆起や浸食などによって現在の姿になったものです。今回の観察会は、これらの地形を実際に観察し、太古の地球に思いをはせ、身近なところから地質に興味を持ってもらうためのものです。

観察会では、展望台から地質の解説、海底火山の溶岩や“めのう”脈の観察、そしてお目当ての“めのう”



を採取したのち、袋田の滝の形成過程の説明を行いました。



## 平成 14 年秋の叙勲受章者

勲二等瑞宝章	杉浦 賢	(元工業技術院長)
勲三等瑞宝章	阿部 稔 柴田 賢	(元機械技術研究所次長) (元地質調査所地殻化学部長)
勲四等旭日小綬章	東野 徳夫 平山 次郎	(元地質調査所技術部長) (元地質調査所燃料資源部長)
勲四等瑞宝章	佐々木 寛治 高橋 忠雄 小山 隆	(元繊維高分子材料研究所第 4 部長) (元公害資源研究所資源第 2 部長) (元計量研究所総務部長)
勲五等瑞宝章	三戸 龍興 倉持 茂	(元公害資源研究所総務部長) (元製品科学研究所総務部長)



## 第 2 回東北産業技術研究交流会開催

<http://unit.aist.go.jp/tohoku/new/event/ev20021003-end-j.html>

10月3日(木)、「産総研の活用を探る」をテーマに「第2回東北産業技術研究交流会」が産総研と東北産学官連携協議会の共催で仙台サンプラザにおいて、東北各県から約200名の産学官関係者を得て開催されました。

この交流会は、独法化後の産総研を充分理解してもらい、今後の産学官連携強化に役立てることを目的とし、2部構成で行われ、第1部の講演

会では、東北地域で関心の高い「エネルギー・環境」と「情報・電子」の2分野における産総研の研究紹介および東北の産学官連携の事例などが紹介されました。第2部のポスターセッションでは、東北6県の公設研の研究内容、産学官連携プロジェクトなど27件行われ、企業、公設研、大学などの参加者と産総研コーディネータとの活発な討議と話し合いが持たれました。



## 第 4 回産総研・技術情報セミナー開催

10月10日(木)、つくばセンターにおいて、産総研、公的研究機関、企業等から80数名の参加を得て、第4回産総研・技術情報セミナーが開催されました。今回の主題は、技術シーズのインキュベーションと、イノベーションの構造と方法です。

慶應義塾大学知的資産センター所長 清水啓助教授による「技術シーズのインキュベーション-大学での4年間の経験-」の講演では、技術

シーズの実用化やインキュベーションには、特許戦略や事業化戦略など複合する事項のマネジメントが必要であること、また、産学連携の成功要因や研究開発型ベンチャーへの期待や課題、必要な支援策等が紹介されました。次いで、日本経団連21世紀政策研究所 山口栄一研究主幹の「イノベーションの構造と方法-半導体デバイス産業の事例より-」の講演では、半導体・デバイス産業

でのいくつかのイノベーション事例をもとに、イノベーションが起こるプロセス、生成条件について、また、特許と論文数や研究者数との相関からみた米国と日本の主要な企業における違いについて紹介され、日本企業におけるイノベーションの生成環境の再構築には、技術創造の生成プロセスが醸成される「共鳴場」の再生が必要なことを示されました。



## 韓・中・日ハイテクビジネスフォーラム

10月16日(水)、ソウル国際会議場において、韓・中・日ハイテクビジネスフォーラムが開催されました。これは、昨年の韓・中・日の首脳会議での合意を背景に、ハイテクにフォーカスして開催されたもので、3カ国から約150名の参加者がありました。

主催は韓国の産業技術財団で、日本側は産総研、中国側は科学技術協会が主管団体として協力し、産総研

からは宮本宏国際部門長を団長として、6名が招待講演者として参加しました。また、日本のハイテク関連企業、大学から約20名の参加がありました。

会議は、韓国商務産業エネルギー省大臣 Kook-Hwan Shin 氏等、3カ国の代表の挨拶の後、情報通信、ライフサイエンス、環境の3分科会で3ヶ国の専門家による討議が行われました。また、来年の本フォーラムが中国で



開催されることが報告されました。

翌日17日からは、韓国を中心とした約100社のハイテク展示会がありました。



## 産技連第2回知的基盤部会総会

<http://unit.aist.go.jp/collab/collab-hp/wholesgk/sangiren/knowledge/index.htm>

10月18日(金)、広島市の広島ガーデンパレスにおいて、産技連第2回知的基盤総会が幹事機関の広島県立西部工業技術センターの協力を得て、39機関、65名の参加のもとに開催されました。

総会では、玉川広島県商工労働部長、小野計測標準部門長の挨拶の後、産業政策局地域技術課塚本課長から地域経済産業政策関連の平成15年度概算要求状況や産業クラスター計画について、中国経済産業局産業技術

課森元総括係長から中国地域における産学官連携に向けた取り組みについて、それぞれ説明がありました。その後計測分科会および分析分科会の具体的活動事例の紹介も交えながら、当部会独特のテーマである計量標準・標準物質の供給への公設研の寄与等について議論がなされました。最後に広島大学廣川教授による特別講演が行われ、キャピラリー電気泳動法の高精度化および高感度化を目指した研究紹介がありました。



総会終了後、現地研修として、マツダ株式会社宇品工場の組立ライン等を見学しました。



## グローバル・ベンチャー・フォーラム 02 開催

10月24日(木)、25日(金)、大阪市マイドームおおかさにおいて、グローバル・ベンチャー・フォーラム(GVF) 02が開催されました。このフォーラムは、国内外のハイテクベンチャー企業が販路、生産技術、資金等の経営資源を持ったビジネスパートナーと商談・情報交換を行うことを目的としたものです。

産総研は、今回協議会に初参加し、成果普及と連携促進を目指し、田中

一宣理事による「独立行政法人 産業技術総合研究所におけるナノテクノロジーの研究と技術移転について」と題するナノテクノロジーシーズ特別発表会講演(24日)、とブース展示(24、25日)を行い、産総研の各種制度、技術移転、ナノテク研究におけるシーズについて紹介しました。

当日は8カ国30社が出展、230社350余名の参加があり、産総研の講演、ブース内容について国内外の参



加者から組織概要、技術動向、ベンチャー支援などさまざまな質問が寄せられました。